

最優秀賞

キャッチフレーズ 現代長屋暮らし

応募者

設計者：一級建築士事務所 株式会社 Studio PRANA
林 美樹
施工者：町家大工都倉 都倉 孝治 他1名

建築概要

敷地面積 70.94 m²
建築面積 35.10 m²
述べ床面積 69.66 m²(1階 34.83 m² 2階 34.83)

■設計主旨

この住まいは北沢駅から歩くこと15分の静かな住宅地にある。すぐ脇には四季折々の植物とせせらぎを楽しめる北沢川緑道が通り、桜の季節は花見の人たちで賑わう。ここにあった小さなワンルームアパートを相続した家主が、自らのセカンドライフをこの場所で楽しみたいと1階2階と2戸の積層長屋への建て替えを考えた。1階を自分の住まいとし、2階は友人が入居することを想定している。

家主はせっかく建てるのであれば、住まい手の健康に良く、環境にも良い建築で、しかも長持ちして将来相続することになる子供達にとっても負の財産とならないものを作りたいと考えた。そこでStudioPRANAでは、いつものように近くの山の木（この場合は多摩産材）を手刻み（日本の伝統木造技術の継承）で、竹小舞土壁（自然の素材で土に還る。調湿、蓄熱などの性能に優れる）を提案した。それに加え、2階に入居予定の友人が化学物質過敏症であることもあって、2階部分では漆喰仕上げの面積を多くし、キッチンなどもステンレス製の特注となっている。量も過敏症対応の特別仕様であり、カーテンも100%オーガニックコットンである。プランとしては実にシンプルで、寝室に使う量の部屋とキッチンと一体となった居間、それと水回りである。しかし、東西に風が抜けるように、また風を通しながら、安心して就寝できるよう、地窓や格子戸など開口部に工夫をしている。

これからも単身住まいは増え続けることが予想される。それでも気のおけない友人などとプライベートは保ちながら近くに暮らすというのは、特に年齢を重ねた時には安心につながるのではないだろうか？

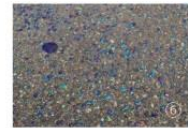
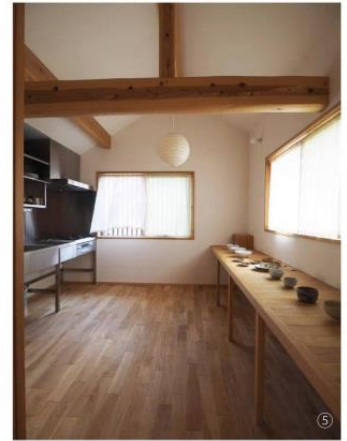
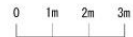
家を建てる時に、その家をどのように誰に引き継ぐのか考えもせずつくられてきたことが、今の空き家問題の一要因とも言える。気をとらずに街並みへ心を配り、長く大切に使える住まいこそ大切であると考え、あえてこれを長屋と呼ぶのは、住人同士や地域との緩やかな関係性を産む住まいであってほしいからである。



2階平面図



配置図/1階平面図



- ① 東側外観
- ② 1階 居間/台所
- ③ 1階 和室
- ④ 1階 洗面所
- ⑤ 2階 居間/台所
- ⑥ 1階 玄関洗い出し

■防火計画

準防火地域に位置するため外部は告示1359号により土壁50%以上及び外部モルタル漆喰塗で防火構造を確保している。その他、軒裏面戸なども告示1358号に準じた厚みを確保し全て木部現しとした。

1F玄関建具に関して、告示1360号により鉄板張りの雨戸によって防火設備としたため、意匠性の高い木製建具を使用することが可能となっている。



■火気使用室における木質仕上げ

防火性のある下がり壁を設置することでキッチンとつながる居間部分の仕上げを木質としている。



壁や天井見付面積の1/10以内を上限值とし木部現しとすることが出来るという緩和規定を使い梁や母屋を見せている。



■小舞かきワークショップ

家づくりを身近に感じてもらうため、施主・職方仲間・友人たちが自らの手で竹小舞をつくりあげた。

